

HQR022-P07

会場:コンベンションホール

時間:5月24日 10:30-13:00

## 福岡県直方平野に掘削されたGS-OGGコアの堆積相と年代 Sedimentary facies and radiocarbon ages of GS-OGG core, from Noogata Plain, Fukuoka Prefecture

田中 甫脩<sup>1</sup>, 石原 与四郎<sup>1\*</sup>, 中島 礼<sup>2</sup>, 小松原 純子<sup>2</sup>, 弓 真由子<sup>1</sup>, 瀧井 喜和子<sup>1</sup>, 佐々木 泰典<sup>1</sup>, 水野 清秀<sup>2</sup>  
Masanobu Tanaka<sup>1</sup>, Yoshiro Ishihara<sup>1\*</sup>, Rei Nakashima<sup>2</sup>, Junko Komatsubara<sup>2</sup>, Mayuko Yumi<sup>1</sup>, Kiwako Takii<sup>1</sup>, Yasunori Sasaki<sup>1</sup>, Kiyohide Mizuno<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 福岡大学理学部, <sup>2</sup> 産業技術総合研究所

<sup>1</sup>Fukuoka University, <sup>2</sup>AIST/GSJ

福岡県遠賀郡遠賀町には、遠賀川に沿って比較的厚い第四系が分布する。ボーリングデータベースを用いた第四系の層厚分布の3次元モデルでは、最大で48mに及ぶ厚さが得られている(池見ほか, 2010)。この第四系のうち、特に遠賀川中・下流域の層序は下山(2002)によってまとめられ、上部更新統の黒山泥層と「古遠賀湾」を埋積した完新統の遠賀川シルト層の2層準に海成層が認定されている。産業技術総合研究所・地質調査総合センターでは「福岡沿岸陸域の地質・活断層調査計画」の一環として福岡市西区の生の松原と遠賀町の総合運動公園において、それぞれ層序ボーリングの掘削を実施した。本講演では、これらのうちGS-OGG-1, GS-OGG-2の堆積相および放射性炭素年代について報告する。なお、GS-OGG-1は基盤となる古第三系の高まりの上で掘削され、GS-OGG-2は200mほど離れた位置で深度-15mから、上部更新統を経て同じく古第三系まで掘削されている。

GS-OGG-1は、下位の古第三系を不整合で覆い、礫質河川相(段丘礫層)、泥質干潟(カキ礁)相、砂質干潟相、ラグーン相、塩水湿地相、クレバスプレー/氾濫原相と累積する。GS-OGG-2は、下位の古第三系を不整合で覆い、河口砂州相、ラグーン相、土石流堆積物/礫質河川相(段丘礫層)、砂質干潟相と累積する。このうち、砂質干潟相がOGG-1の砂質干潟と対比される。GS-OGG-2コアの最上部の砂質干潟相以深は、放射性炭素年代では4万年以上前の値が得られること、から上部更新統と考えられ、ラグーン相の泥層は最終間氷期の堆積物であると推定される黒山泥層と対比されると考えられる。一方、GS-OGG-1は泥質干潟から上位が沖積層で、 $8620 \pm 40y$  BP ~  $910 \pm 40y$  BPの放射性炭素年代が得られている。また、深度18.3m付近には厚さ2cmほどの風化した火山灰層があり、含まれる斜方輝石の屈折率が $=1.699-1.706$ (モード1.699-1.701)と特徴的に低いことから、阿蘇4テフラに対比される可能性がある。沖積層の大部分を成すラグーン相は、塩水湿地相に移行し、最上部は氾濫原の泥層とクレバスプレー・ロープの砂層で覆われるが、主要なチャンネル(遠賀川)で削られた形跡は認められない。これは遠賀川が現在流れている平野中央部ではなく、東側もしくは西側を流れ、頻繁に洪水を引き起こしていたという事実とも矛盾しない。

キーワード: 直方平野, 堆積相, 放射性炭素年代, 第四系, ラグーン, 遠賀川

Keywords: Noogata Plain, Sedimentary facies, Radiocarbon date, Quaternary, Lagoon, Onga River